

2011.6.3に届いたとされるFAX

柏葉校長先生へ。当時の状況を送信させていただきました。本当に申し訳ありません。先日ご連絡をいただいて以来、当時の状況を思い出して恐ろしく、思い出そうとすると全身の血の気が引いて倒れそうになります。今文章を打っていても手が震えます。食欲もなく、＝だけでなく、＝や＝も認められると言われ、宮城から離れて入院することを勧められましたが、そうもいかず、なんとか耐えております。以前の体調に戻ってしまったような状態です。

そんな訳で、今回はどうしても体と心が言うことを聞きません。申し訳ございません。

校長や先生の実名を出してもいいでしょうか。これまで、特に教頭先生とのやりとりは亡くなった教頭先生の遺族を傷つけないで、あまりはっきりとは言っていませんでした。

今思い出せるのは本当にこれだけです。正直分からないというのが本音です。それまでの行事などでもそうだったように、教頭先生は動かずに指示を出して、私が周囲のことをいろいろとやるために動き回るという状況でした。

あくまで想像ですが、あの極限状態の中で、本当に教頭先生も迷われたのだと思います。ずっと強い揺れが続いており、木が倒れている（錯覚だったのかもしれませんが、みんなそのように見えていたと思います。私も子どもと山の中にいたとき、何度も揺れるたびに周囲の木が折れて倒れる音を聞いています。その度に場所を変えたのですから）状況の中、道もない山を登らせるのをためらったのだと思います。せめて1本でも道があれば、教頭先生も迷わず指示を出されたと思います。それだけに、最後に山に行きましようと言ったとすると、悔やまれて胸が張り裂けそうです。

本当にだらしなくて申し訳ありませんが、今回思い出したことでのダメージが強く、体調も精神状態もおかしいです。わがままとは十分承知しておりますが、すみません、自分の間そとしておいていただけますでしょうか。携帯の着信にもおびえてしまっております。本当に申し訳ございません。

なお、家にFAXがなく、全く無関係のところからFAXしています。発信場所に迷惑がかからないように消すなどしていただけますでしょうか。

保護者の皆さま

本来は私が出向いて説明しなければならぬのですが、精神を病んで混乱しており、どうしても伺うことができません。手紙で説明することをお許しください。

あの日、校庭に避難してから津波が来るまで、どんな話し合いがあったかということですが、大変申し訳ないのですが、正直私には本当によく分からないのです。と申しますのは、避難後、教頭先生は本部長として指揮を執っており、担任はそれぞれのクラスの子どものそばに付いていました。そのため、私は周囲のいろいろなことに走り回っており、どんなことが話し合われたのか、直接その場にいられたのでよく分からないのです。

その中で断片的に思い出せることをお話します。

子どもたちが校庭に避難した後、私は校舎内に戻り、すべての教室、トイレを含めすべての場所を残留者がいないか、一つ一つ確認しました。開かないドアがあったりして、全部回るにはかなり時間がかかりました。

確認後、校庭に戻り、教頭に報告に言った時、教頭と先生を以て中心に何人が集まって（誰がいたかは記憶がありません）話をしていました。私が「どうですか、山に逃げますか？」と聞くと、この揺れの中ではだめだ、というような答えが返ってきました。誰が言ったかは覚えていません。その理由は余震が続いていて揺れが激しくて、木が倒れてくるというようなことだったと思います。

そのほんのわずかなやりとりをしているとき、おじいさんやおばあさんなど近所の方々が避難所になっている体育館へ入ろうとされていたので、私はすぐにその場を離れ、体育館に行き、危険だから入らないようにお話ししたりするなどの対応に当たりました。そのとき教頭や他の教員は迎えに来た保護者の対応にあたっていました。そのときも頻りに強い揺れが続いていました。

そのうち地域の方々が来て、釜谷の交流会館へ避難しようという話があり、危険だからだめだといったやりとりを教頭がしているのが聞こえてきました。

その後私は二次避難に備え、はだして逃げた子や薄着で寒さで震えている子たちがたくさんのため、校舎内のジャンパーを持ってきた。トイレを我慢できなくなった子を安全な場所に連れて行ったりもしていました。

そのようなことに走り回っているうち、サイレンが鳴って、津波が来るという声がどこから聞こえてきました。私は校庭に戻って、教頭先生に「津波が来ますよ。どうしますか。危なくても山へ逃げますか」と聞きました。でも、何も答えが返ってきませんでした。それで、せめて、一番高い校舎の2階に安全に入れるか見てくるということで、私が1人で2階を見てきました。そして戻ってくると、既に子供たちは移動を始めていました。近くにいた方（どなたかは覚えていません）に「どこへ行くんですか」と聞くと「間垣の堤防の上が安全だからそこへ行くことになった」ということでした。どのような経緯でそこへ行くことになったかは分かりません。地域の方々ととの相談があったのかもしれませんが。その後のことは、以前お話したとおりです。

これが今私が思い出せることのすべてです。皆夢中で動いていて、教頭とは2回ほんのわずかな会話しか交わすことができなかつたため、どのような話し合いがあったのかの詳しいことは本当に分からず、申し訳ございません。また、記憶が混乱しているため細かなずれなどもあるかもしれませんが、また、他の教員がどうしていたか、どの学年から移動していたかなどについては、本当に申し訳ございませんが記憶がありません。

何を言っても、子供の命を守るという教師としての最低のことができなかった罪が許されるはずはありませんが、本当に本当に申し訳ございませんでした。今はただただ亡くなった子供たちや先生方のご冥福をお祈りする毎日です。本当に申し訳ございません。

7ヵ月以上、存在を忘れていた!?

2011.6.3 2回目の説明会(6/4)の前日、学校に届いたとされるA教諭からのFAX

2012.1.22 3回目の説明会で突然、示された。(全員に配布。メディアにも→報道を意図した)

- ・6/4の説明会では言及なし。
- ・市教委内でFAXの存在を知っていたのは2, 3人だけ?
- ・当初「これで最後」としていた2回目の説明会で出さなかったということは間に葬ろうとしていた?
- ・3回目の説明会までFAXの存在を忘れていた?

どのようにして市教委に届いたのか説明ができない!?

【校長】

- ・6月3日にFAXが来てそれを市教委にFAXした。
- ・事前の電話等はなくFAXが届き、事務官が校長に持ってきた。

【事務官】

- ・FAXは見えていない。そんな重要なFAXが来たら、覚えているはず。

【市教委】

- ・6月3日、校長が市教委に持参した。
- ※学校日誌に校長が市教委に出張した記録はない。

.....
※ドクターストップの人がこのような長文を書くことができるのか?(この時期に病院に行ったという証拠はない。最初に病院に行ったという日はもっと後の日とされる)